音楽科学習指導案

日　時　令和〇年〇月〇日（〇）
　　第５校時　13:30～14:20
学校名　中学校
対　象　第２学年
会　場　音楽室
授業者　〇〇　〇〇

第１期班テーマ：ねらいを明確にした授業づくり

１　題材名　曲想と音楽の構造との関わりを理解して、よさや美しさを味わおう

２　題材の目標

(1) 「フーガ　ト短調」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解する。
(2) 「フーガ　ト短調」の曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。
(3) 「フーガ　ト短調」の曲想と音楽の構造との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら主体的・協働的に鑑賞の学習に取り組む。

３　題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知　「フーガ　ト短調」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。	思　「フーガ　ト短調」の音色、旋律、テクスチュア（音の重なり方）、を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。	態　「フーガ　ト短調」の曲想と音楽の構造との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

４　指導観

(1) 題材観

本題材は中学校学習指導要領（平成 29 年告示）第３章第２節音楽〔第２学年及び第３学年〕

２内容　Ｂ鑑賞
(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を身に付けることができるよう指導する。
ア　鑑賞に関わる知識を得たり生かしたりしながら、次の(ｱ)から(ｳ)までについて考え、音楽のよさや美しさを味わって聴くこと。

(ｱ) 曲や演奏に対する評価とその根拠

イ　次の(ｱ)から(ｳ)までについて理解すること。

(ｱ) 曲想と音楽の構造との関わり

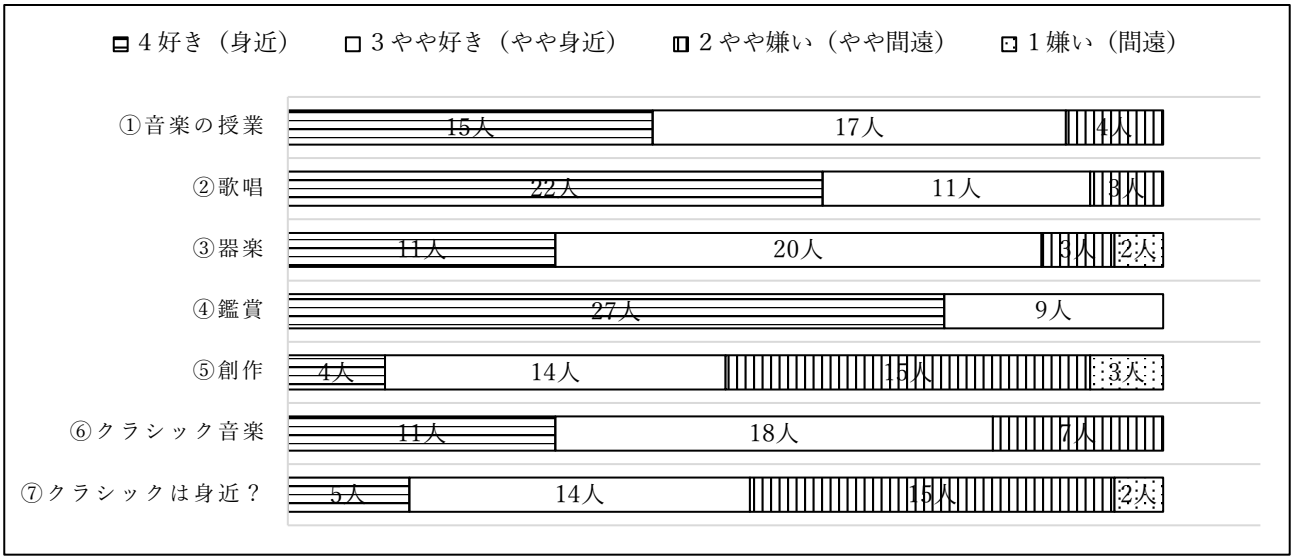
を受けて設定した。

〔共通事項〕(1)アとの関連を図るに当たり、「第３　指導計画の作成と内容の取扱い」２(9)で示されている音楽を形づくっている要素のうち、主に「音色、旋律、テクスチュア、形式」を扱う。

本題材では、「フーガ　ト短調」(J.S.バッハ作曲）を教材曲として取り扱う。第１時では、冒頭部分を音のみで聴き、冒頭部分の主題の反復を手掛かりとして学習を進めていく。冒頭の主題が何回反復されているかをグループで確認する活動を行い、主題の現れ方に変化があることに気付くことができるようにする。その際に、知覚したことと感受したことと、曲想と音楽の構造がどのように関わっているかに着目させたい。第２時では、第１時で学習した曲想と音楽との関わりを生かしながら、曲全体を味わって聴く学習活動を展開する。

(2)　生徒観

第２学年の生徒は、音楽の学習に意欲的に取り組むことができている。令和４年４月に第２学年５組（調査数 36 名）を対象に行ったアンケートでは以下のような結果が得られた。



四つの音楽活動の中で、鑑賞を好きな生徒が最も多く、次いで歌唱を好きだと答えた生徒が多かった。実際には音楽を聴くことが好きでも、ワークシートに音楽を聴いて気付いたことや感じたことを書いてみると、自分の言葉を使って適切な記述をするのが困難な生徒もみられる。スモールステップで知覚したことや感受したことを書かせたり、グループ活動で意見交流を行ったりすることで、鑑賞が「好きだ」という生徒たちの気持ちや関心が、本教材に対する理解に結び付けられるように工夫したい。

また、クラシック音楽を身近だと感じる生徒と身近ではない（間遠だ）と感じる生徒の数はほとんど同じであり、テレビなどを通じて自然と耳に入ってはいるものの、感覚としては身近に感じていないようである。ロックなど異なるジャンルにまで多大な影響を与え続けている J.S.バッハの音楽に親しむことで、生涯にわたってジャンルを問わず音楽を味わって聴く態度を育みたい。

(3) 教材観

ア　鑑賞教材　「フーガ ト短調」(J.S.バッハ作曲)

「フーガ ト短調」はJ.S.バッハが作曲したオルガン曲である。演奏時間は約４分である。同じト短調のオルガン曲「幻想曲とフーガ」と区別するために、「幻想曲とフーガ」を「大フーガ」、「フーガ ト短調」を「小フーガ」と呼ぶこともある。冒頭の主題が、開始音の高さを変えながら四つの声部に現れ発展していくフーガの形式で作られている。最初の４回の主題は、主題（ソプラノ・ト短調)、応答（アルト・ニ短調)、主題（テノール・ト短調)、応答（バス・ニ短調）と次第に低くなっていく。その後は、様々な声部で冒頭から合わせて10度主題が繰り返し現れ、最後はピカルディ終止（ト長調の主和音）で終わる。パイプオルガンの荘厳な響き、わかりやすい主題、フーガの形式、などの特徴をもち、興味をもちやすい楽曲である。

映像・音源　「フーガ ト短調」　藤枝照久

（よくわかる！音楽鑑賞の授業づくり　公益財団法人 音楽鑑賞振興財団）

映像　「パイプオルガン誕生」（ＮＨＫエンタープライズ）

５　年間指導計画における位置付け

本題材に関連する鑑賞の題材は以下のとおりである。

第１学年　３学期	第２学年　１学期	第２学年　２学期
○　日本の民謡やアジアの諸民族の音楽の特徴を感じ取ってその魅力を味わおう（３時間） 〔主な教材〕 「ソーラン節」（北海道民謡） 「ドゥドゥク」（アルメニア） 「カッワーリー」(パキスタンなど）など	○　曲想と音楽の構造との関わりを理解して、よさや美しさを味わおう（本題材・２時間） 〔主な教材〕 「フーガ ト短調」（J.S.バッハ作曲）	○　曲想と音楽の構造との関わりに注目しながら、オーケストラの響きを味わおう（３時間） 〔主な教材〕 「交響曲第５番 ハ短調」（ベートーヴェン作曲）
音楽の特徴とその背景となる文化や歴史との関わり、我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴と、その特徴から生まれる音楽の多様性について理解し、生活や社会における音楽の意味や役割、音楽表現の共通性や固有性について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。	曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、音楽のよさや美しさを味わって聴く。	曲想と音楽の構造との関わりについて理解するとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、オーケストラの楽器のそれぞれの音色や重なり合う響きのよさや美しさを味わって聴く。

６　題材の指導計画と評価計画（２時間扱い）

知、技、思、態 …全員の学習状況を記録に残す場面

時	◎ねらい　○学習内容　・学習活動	知・技	思	態
第１時	◎　「フーガ　ト短調」の曲想と音楽の構造との関わりに関心にもち、理解する。			
	○　「フーガ　ト短調」の曲想と音楽の構造との関わりに関心にもつ。 ・　冒頭部分から主題が４回繰り返されている部分までを聴き、気付いたことをワークシートに記入し、発表する。 ・　音色に着目して、何の楽器で演奏されているか考える。 ・　パイプオルガンについて映像を見ながら楽器の構造について理解する。 ・　教科書を見ながら、更に詳しく歴史や構造について理解する。 ○　「フーガ　ト短調」の曲想と音楽の構造との関わりを理解する。 ・　教師がキーボードでパイプオルガンの音で主題をゆっくり弾き、それを聴いたり口ずさんだりして主題を覚える。 ・　４人一組になり、主題がどの声部で繰り返されているかを数えながら聴く（４人一組で相談しながら聴く）。 ・　全体で声部を確認しながら、フーガという形式について学習する。 ・　鍵盤楽器（パイプオルガンとチェンバロ）について学習する。 ・　教師がキーボードを用いてパイプオルガンとチェンバロの音色で弾き分けることで、その違いを理解する。 ○　本時の振り返りをする。 ・　ワークシートに本時の学習を通して気付いたことを書く。 ・　全体で数名が発表し、意見交流をする。	知 発言・記述		態 記述
第２時（本時）	◎　「フーガ　ト短調」の音色、旋律、テクスチュア、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、楽曲のよさや美しさを味わって鑑賞する。			
	○　「フーガ　ト短調」の音色、旋律、テクスチュア、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。 ・　全曲を通して視聴し、楽曲の特徴を捉え、ワークシートに記入する。 ・　全体で意見交流し、音楽を聴いて共有する。 ・　教師の板書を見て、他の生徒が知覚・感受したことを確認する。 ・　全体で共有したことを基にワークシートを見直し、特徴的な音楽の構造と雰囲気とを線で結ぶなどして、知覚したこととの関わりを追加記入する。 ○　曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、「フーガ　ト短調」のよさや美しさを味わいながら鑑賞する。 ・　全曲を視聴し、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、紹介文を書く。 ・　４人一組で意見交流する。 ・　全体で意見交流する。 ○　題材全体のまとめをする。 ・　「フーガ　ト短調」のよさや美しさを味わいながら聴き、自分のワークシートを見直してまとめる。	知 発言・記述	思 記述	態 発言・記述

7　指導に当たって

◆第１期班テーマ　ねらいを明確にした授業づくり

ねらいを明確にした授業をつくるためには、題材を通して生徒にどのような力を身に付けさせたいかを教師がしっかりと意識しておくことが大切である。また、教師が生徒に分かりやすくねらいを提示し、発問を工夫することが必要である。そこで本題材では以下の視点から指導を工夫する。

⑴　「生徒理解」の視点から

グループ活動において、ワークシートの記述が進まない場合や、意欲をもてず努力を要する状況（C）と判断されそうな生徒がいる場合は、その生徒や、同じグループの生徒と対話しながら、その対話の中から言おうとしていることを引き出して適切な言葉で示したり、個に応じた助言をしたりする。

また、全体での意見交流の場面では、友達と同じ考えのときは挙手させたり、板書にまとめられた意見の中で同じように気付いたり感じたりしたことがないか、尋ねたりする。更に友達の意見や板書の中で自分の考えに近い意見を選んでワークシートに記入するように促し、書いた内容について「○○と感じたんだね」と認める。

⑵　「指導技術（授業展開）」の視点から

本題材では、反復する旋律に注目することができるように、冒頭の主題を聴くだけでなく、口ずさんで覚えることで、より主題に親しみやすくし、その後の主題の反復を数える活動を取り組みやすくさせる。更に、指導を展開していく中で、生徒の気付きに対して追発問を行い、音で確かめる活動を繰り返すことで、音楽を聴く活動を通して、知覚したことと感受したこととの関わりについての理解を深められるようにする。

⑶　「主体的・対話的で深い学び」の視点から

友達と一緒に確認しながら反復する主題の回数を数えたり、どの声部であるかを聴き取ったり、４人一組で気付いたことや感じたことを共有したりする活動を通して、多様な考えに触れ、学びを深めることができるようにする。一人では発表することが苦手な生徒も、友達と意見を共有して自分の考えに自信を付けたり、言葉にできるようになったりすることで、より主体的に学習に取り組むことができるようになる。また本時では対話的な学びを深めるために、主に４人一組での活動を取り入れ、意見交流を行う。

8　本時（２時間中の第２時）

(1)　本時の目標

「フーガ　ト短調」の音色、旋律、テクスチュア、形式を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、「フーガ　ト短調」のよさや美しさを味わって聴く。

(2)　本時の展開

時間	○学習内容　・学習活動	・指導上の留意点	評価規準 （評価方法）
導入 10分	○　知覚したことと感受したこととの関わりについて考える。 ・　全曲を通して視聴し、楽曲の特徴を捉え、ワークシートに記入する。 【発問】 この曲の特徴を挙げるとしたら、どんなことが挙げられますか。ワークシートに書きましょう。 【補助発問】 前回の授業で学んだ形式、楽器、作曲者について思い出しながら、「特徴的な音楽の構造」と「雰囲気」に分けて記入しましょう。	・　音楽を聴いた後に書いたことを発表してもらうと伝えておく。 ・　特徴として、特徴的な音楽の構造（知覚したこと）から着目する生徒、知覚したことと感受したこととを関わらせて説明できる生徒など様々である。この場面では、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えるように言葉掛けをする。	態　「フーガ　ト短調」の曲想と音楽の構造との関わりに関心をもち、音楽活動を楽しみながら、主体的・協働的に鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。 （発言・記述）
展開 30分	・　全体で意見交流をしながら、音楽を聴いて共有していく。 ・　生徒が発言した内容が示す部分を、教師がキーボードを用いてパイプオルガンの音色で弾く。 【予想される生徒の反応①】 ○○さんは「主題が繰り返されることが特徴である」と音楽の構造に注目して発言してくれました。	・　生徒の発言を「特徴的な音楽の構造」（知覚したこと）と「雰囲気」（感受したこと）とに分け、その関連性が分かるように板書する。 ・　意見交流は発言のやり取りで終わらせるのではなく、音楽を聴く活動を通して、一つ一つ確認し共有する。	

【発問】
では、主題が繰り返されることによって、どのような雰囲気が生み出されていると思いますか。みんなで考えましょう。

・ 物語に例えて、主題を主人公と置き換えると、登場人物（主題）が、ストーリーが進むにつれてどのように変化していくかを考える。	・ 音の高さや調性が変わることでどのように雰囲気が変化するかに気付かせる。

【予想される生徒の反応②】
○○さんは「主題が明るくなっている場所がある」と主題の雰囲気の変化について発言してくれました。
【発問】
ではなぜ主題はそのように変化したと思いますか。みんなで考えましょう。それではこれから、主題が短調で示された部分と長調で示された部分を弾きます。どのような違いがありますか。

・ 短調と長調で示された主題を弾き、調性が変わることでどのように雰囲気が変わるかを感じ取る。	・ 調性による感じの違いが、この曲の雰囲気にどのように関わっているか考えさせる。

【追発問】
もう一度なぜ主題が変化していくのか考えてみましょう。主題の変化について同じ場面はありますか。主題はどのように展開しますか。

・ 複雑な旋律の重なり合い方や組み合わせ方（テクスチュア）が、フーガという形式の醸し出す壮大な感じを生み出すということについて、実感を伴って感じ取る。	・ テクスチュアという言葉の意味について、音楽を聴きながら理解させる。

【予想される生徒の反応③】
○○さんは「最後救われるように感じたのは、長調の和音で終わるから」と音楽の構造と雰囲気とを結び付けて説明してくれました。
【発問】
では最後の部分を長調の和音と短調の和音で終わる二つのパターンで弾いてみます。どのような違いがありますか。

・ 和音による違いを比較することで、最後に長調の和音で終わることで生み出される雰囲気や感じの違いについて、実感を伴って感じ取る。	・ 和音や調性の違いが音楽の雰囲気を作り出していることに気付かせる。

	・　全体で共有したことをもとにワークシートを見直し、特徴的な音楽の構造と雰囲気を線で結ぶなどして、知覚したことと感受したこととの関わりを追加記入する。	・　同じような内容につながる発言はまとめて説明し、共有することで、一つ一つの発言を大切にしながらも、丁寧になりすぎないように気を付ける。	
	○　曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、「フーガ　ト短調」のよさや美しさを味わいながら鑑賞する。	・　第１時に学んだフーガの形式やパイプオルガンの特徴についても思い出すように言葉掛けする。	
	・　全曲を視聴し、曲や演奏に対する評価とその根拠について考え、紹介文を書く。 【発問】 「フーガ　ト短調」のよさや面白さを紹介する文を書きます。授業で学んだ音楽の特徴をもとにして考えましょう。	・　鑑賞しながら紹介文を書き始めてよいことを伝える。	
	・紹介文を４人一組で発表し合う。	・　机の方向を変えるように言葉掛けをする。	
	・　紹介文でよいと思った点、共感した点などを伝え合う。	・　友達の意見を聞きながら必要に応じてメモするように言葉掛けする。	知　「フーガ　」ト短調」の曲想と音楽の構造との関わりについて理解している。 （発言、記述）
	・　数名を指名して全体の場で発表する。	・　友達の意見を聞いて追記入するように言葉掛けする。	
まとめ10分	・　改めて自分の紹介文を見直しながら、最後にもう一度「フーガ　ト短調」を聴き、自分の紹介文を完成させる。	・　友達の意見や共有した意見を基に自分の書いた紹介文を見直すように促す。	思　「フーガ　ト短調」の音色、旋律、テクスチュア（音の重なり方）、を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりに

			ついて考えるとともに、曲や演奏に対する評価とその根拠について自分なりに考え、音楽のよさや美しさを味わって聴いている。 （記述）

(3) 板書計画

黒板１（左半分）

本日のねらい

「フーガ　ト短調」を聴き、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、紹介文を書いてみよう。

☆音楽の要素：音色、旋律、テクスチュア、形式

学習の流れ

① 「フーガ　ト短調」の特徴を記入しよう。

みんなで学び合おう

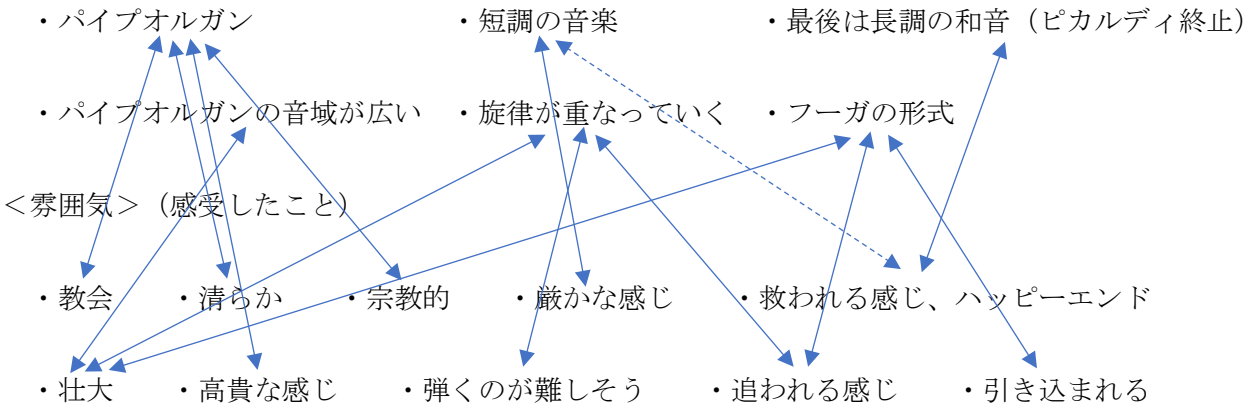
② 「フーガ　ト短調」の紹介文を書いてみよう。

４人一組で意見交流をしよう。

全体で発表しよう。

自分の紹介文を見直そう。

黒板２（右半分）



(4) 授業観察の視点

ア　生徒が知覚したことや感受したことを確かなものにするための発問をすることができたか。

イ　「知識を得たり生かしたりする」場面として、生徒の気付きや発言内容を板書して確認する活動は、生徒が曲想と音楽の構造との関わりについて考える手掛かりとなっていたか。

ウ　４人一組で生徒が教え合ったり助言し合ったりする活動は、主体的・対話的な深い学びにつながる活動であったか。